

四つ葉の

クローバー



小沢映子後援会だより

「はじめまして」のごあいさつに代えて。



母として、人として

子どもを愛する気持ちは、みんないっしょ。

子育てのたいへんさも喜びも、みんないっしょ。

みんな何かを抱えて一生懸命生きています。

私も…娘が障害をもって生まれました。

この子のために、そして同じように

障害をもつ子のためにと一生懸命になりながら

私自身、成長させてもらったように思います。

それを社会のために、

だれもが自分らしく生き生きと暮らせる

社会の実現をめざして

がんばります。

小沢映子

自然

私は西伊豆の極めて自然豊かなところで生まれ育ちました。夏は海へ潜ってサザエ取り、春や秋は山へ行ってアケビやワラビを取ったり、桑の実を食べたり…。野山を駆け回り、まったくの自然児でした。



家族

家族は夫、1男2女の子供、義母の6人で、長女は出産時の障害で歩く事も話す事もできません。でも、歩けなくても特殊な車いすで、話せなくても家族で思いをキャッチして、どこへでも出掛ける、ごく普通の家族です。

イキイキしてるよ、お母さん！ 小沢 香奈子

家でのお母さんは、あまりしっかり者とはいえません。おっちょこちょいだし、度忘れもよくするし、いつもばたばたと動きまわっています。だけど、私たち家族のことを支えてくれる、優しいお母さんでもあります。ちょっと体調が悪くても、私たちのためにご飯をつくってくれます。私が勉強していて問題に苦戦していると、解りやすく教えてくれます。お母さんと過ごしていて、「ああ、愛されているんだなあ。」と感じることがたくさんあります。(過剰すぎて煩わしく感じることもあるけど。)時には鬼のように怒ります。だけど、それはわたしたちのことを大事に思っているからこそなのです。それに、普段はジョークを言って笑わせたり、いきなり弟に抱きついたり、私たちを楽しませてくれるのです。今、忙しいようなお母さんは、大変そうだけどいきいきしているように見えます。これからも、大好きなお母さんに頑張ってもらいたいです。

夢

中学・高校・大学を通して10年間軟式テニス続けてきました。インターハイを目指し、真っ黒になってただひたすら打ち込みました。腰を悪くして思いは叶わなかったものの、その時の友達は一生の宝です。



仲間

落ち込んでくじけそうな時、元気づけられるのはやっぱり同じ悩みを持つ母親の輪です。お互いに支え支えられてきました。後輩のお母さんたちにもきっといいアドバイスをしてあげられると思います。

大きなステージでの活躍を期待！ 渡辺 典子

私が彼女と知り合ったのは12年ほど前でした。末っ子の正太郎君を抱き、勉強会(障害児療育等)に参加していたのを思い出します。今も福祉関係のシンポジウムに遠方まで足を運び勉強し続けてます。彼女が並でないところは、それを実際に使い、実践していることです。そんな彼女ですが、義父さんのアルツハイマー発症で介護が二重になってしまった時は、さすがに愚痴をこぼす事がありました。そんな時でも顔も声も、明るく笑っていたんです。「はなみずき」の代表も下りず、意欲的に活動する姿勢も変えませんでした。改めてすごい人物だと認識させられました。そして今回、実際の体験を通して、福祉や介護等の問題を当事者の立場で市政と向かい、生活者の声でまちづくりをしたいと、気持ちを固めて行ったのだと思います。もっと大きいステージで働き、大きな意味で私たち仲間に安心を届けてくれると思っています。

はなみずき

長女8歳、ある施設を訪ねた時のことです。人手が足りない中、一生懸命お世話を下さっているのはわかります。でも「この子たちの人権はどこにあるの」と思ったら、涙が止まらなくなりました。このままでは死んでも死にきれない、と仲間たちと親の会を作ることになりました。それが「はなみずき」です。県内外へ施設見学に行ったり、いい方がいると講師に呼んで勉強会や講演会をもちました。「重い障害をもつ子どもが1時間以上もかけてリハビリに行くのは大変だ、富士市内でリハビリの充実を」と訴えたり、同じ悩みをもつ親同士、いっしょに活動することで気持ちはずいぶん軽くなりました。

チャレンジドふじ

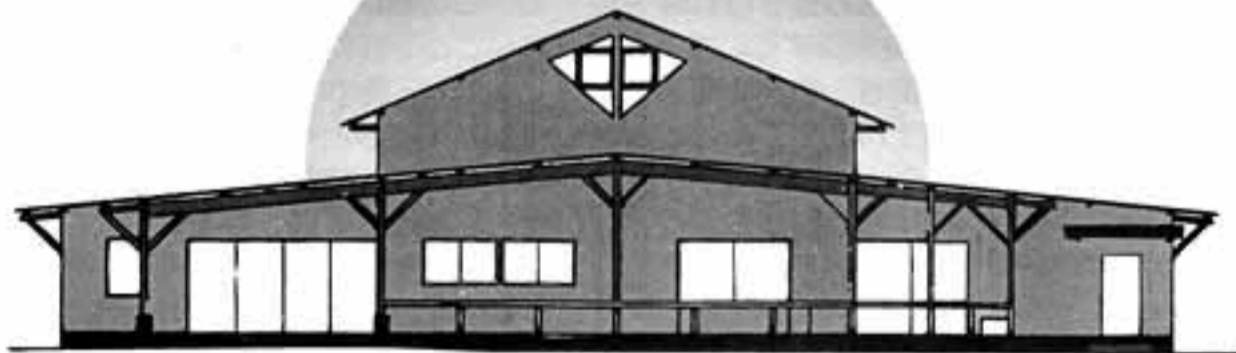
私より一つ年下の脳性麻痺の友人がいます。食事から着替えから移動からと全介助の彼が、どんなに障害が重くても、どこでだれと住むのか、何を食べるか、何を着るのか、何をするのか、を自分で決める自立した生活をしたいと、富士市に「自立生活センター」をつくって他の障害者にもその考えを伝えたいと活動をはじめました。私も仲間になって勉強しながら事務所を探し、平成11年ついに設立となりました。彼は今、自立して一人暮らしを謳歌しています。障害者自立生活センター「チャレンジドふじ」も15年度から、NPO法人格を取得して本格的な障害者ヘルパーの派遣事業に着手します。



りふれ

私たち障害をもつ子どもの親は、この子は将来幸せに暮らすことができるのだろうか…、どこにも安心して託せる場がない…、など先の見えない不安でいっぱいです。どんなに重い障害があっても「大丈夫！その子らしく幸せに暮らせるんだよ。親も自分らしく生きられるんだよ」と安心させてあげたい。それには家庭や子どもを支援してサポートするシステムが必要です。それを実現するために、福祉の受け手から“担い手”になろうと決心しました。地域に根ざし、養護学校卒業後もいきいき活動できる施設をつくりたい。レスパイトサービスを実施したい。地域で多くの人々の目に触れ、関わりながらお互いに心豊かに暮らすことを、何といたっても障害をもつ本人たちが望んでいるからです。それが、いよいよカタチになろうとしています。ホームヘルプ、送迎、付き添いなどの在宅ケアサービス事業所「りふれ」が平成15年4月スタート、知的障害者通所施設「でらーと」が平成16年4月開所予定です。さらに、グループホームを柱とした生活支援へと発展させたいと考えています。

でらーと



熱い心と行動力で、富士市の福祉を向上させてくれる人！

堀 俊二

自立センターチャレンジド・ふじは、小沢映子さんの力なくしては存在しませんでした。重度の障害があっても地域社会で自立生活を送りたいという障害当事者の気持ちをいち早く理解し、共に活動してくれました。

自立センターについても忙しい時間を割いて勉強し、障害当事者よりも理解を深め、事務所探し、事務所の改造、また運営資金とすべての事に力を注いでくれました。そして、私たち障害者が常に主体となるように、押し付けではない支援を今も続けてくれています。このような熱い心と行動力、それ以上に弱い者の気持ちを理解するやさしさをもって富士市の福祉を向上させ、誰もが安心して暮らせる街づくりに情熱を持つ小沢映子さんを支援します。



自分らしく生き生きと

小沢映子が考える身近な福祉

障害をもつ人も

昭和60年5月31日、娘元美を産みました。大変なお産でした。脳に充分酸素がいかなかった娘は、以後重い障害と共に生きることになりました。私は小学校の教師を一生の仕事と考えていましたが、子どものために退職をせざるを得ませんでした。それから病院通いとリハビリに打ち込む日々でした。そして…先の見えない不安で押しつぶされそうでした。

「このままでは死んでも死にきれない！」そこが出発点でした。同じ障害児を持つ仲間たちと、外へ向かって活動をはじめました。「障害を持ってもその子らしくのびやかに、そして母親もその人らしくのびやかに暮らせるような」そんな社会でありたい。そして出た結論が、本当に必要な社会のセーフティネットは当事者が作っていかなくてはできない！ということでした。お金も土地もなく、法人を設立して施設を作るなんて、無理だと何人もの方に言われました。が、「何年かかっても絶対作る！」私は鉄の意志を持とうと決心しました。それから数年経ち、いよいよ思いが形になろうとしています。

- ・安心して暮らせる福祉のまちづくりを全力で。
- ・障害をもつ人の生活を支える在宅サービスの実施。
- ・障害をもつ子どもも地域の学校へ。

市民みんなが

情報公開がしきりと話題に上がります。一部の人たちが物事を密室で決めるという時代は終わらなければならないと思います。本当の市民社会を実現するには、すべての面で市民のチェック機能が働き、市民の知恵を活かしていくことが、活力ある富士市をつくることになると思います。情報公開が進んだといっても、まだまだです。最初の企画段階からオープンにして、行政と市民が共に作り上げていく姿勢が必要ではないでしょうか。

- ・みなさんの声を、議会・市政に届けます。

高齢の方も

昨年亡くなりましたが、アルツハイマーを患った義父の介護を在宅でしました。たとえ今は健康でも誰しも「呆けたらどうしよう、寝たきりになったらどうしよう」こんな思いをもっているのではないのでしょうか。新福祉法は「住み慣れた家で普通の暮らしを」という高齢者や障害者の当然の願いを支援する方向を打ち出しました。地方自治体、特に市町村の独創性が問われる時代になったのです。知恵とやる気をどう出すかで、そこに住む住民たちの老後はバラ色にも灰色にも変わるのです。

在宅生活を支えるのに不可欠なのは医療です。十分な量と質の出張医療や訪問看護、リハビリ等のヘルプサービス、住宅改造とともに福祉サービスとの連携が必要です。市立の病院は地域生活に根ざした医療の拠点としての役割がさらに重要となります。

- ・利用者本位の充実した介護保険に。
- ・心を病む人にも福祉の光を。

子供たちも

亡き義父は、田宿川のことを夢中でした。地域の人たちと川を愛してきました。そういう思いが集まって、小さい子どもから大人まで誇れる地域の財産になったような気がします。たらい祭りの日は、私も娘と乗ります。水の上は気持ち良く、橋の下をくぐる時などもワクワクしてしまいます。理屈でなくこの環境を守る、この思いを次の世代につなげていかなくてはならないことを強くかみしめます。

私は、三島市と富士市で教師を数年続けてきました。十数年前と今とでは、ずいぶん子供たちや学校を取り巻く状況が変化してきているようです。学校の外に身をおく者としては、学校の中だけでの取り組みではなく、空き教室の利用を含め、地域との連携のなかに様々な可能性が生まれると思います。

- ・放課後児童クラブを全小学校に。

小沢映子さんは願ってもない後継者、素敵女性です!!

石丸 恵美子

小沢さんには、最重度の障害をもつ娘さんがいます。彼女が私の後継者として市議会議員選挙への出馬を決意してくれた時、私は大変ではないかという気持ちがよぎりましたが、お話をし、いっしょに活動する中で、何事にもめげず、前向きに取り組む姿勢に感心したり、涙したり、驚かされたりしています。なによりも明るく、元気な女性です。富士市議会36人中、女性が半数になることを願っていましたが、現在女性は3名。これを減らさないように努力するだけです。

小沢さんは、かけがえのない人です。当事者だからこそ、本当の福祉を考えてくれる人です。皆さんのお力で小沢さんを支えてください。私をご支援くださいましたように！